

明治大学国際交流講演会 I-AUD Evening Lecture 2024 #2

Speculation [as] Practice

(講師：ノースカロライナ大学シャーロット校 Chris Jarrett 教授)

2024年5月28日

理工学研究科 建築・都市学専攻国際建築都市デザイン系(I-AUD)は、5月28日にノースカロライナ大学シャーロット校 (UNCC)よりChris Jarrett教授を招き、Speculation [as] Practiceと題した講演会を開催した。I-AUDはUNCCと5月23日から25日までの3日間にわたり、本学中野キャンパスにおいて、「国際共同ワークショップ」を実施しており、講演会は当該ワークショップ参加者のI-AUD修士1年生を中心に本学講師・博士課程学生も含め、45名が参加した。

講演はSpeculation Studio Practice, Speculation Design LAB, Speculation Studio Teachingの3部構成で行われ、建築設計の実践と研究を行き来しながら、建築設計におけるSpeculationの重要性について言及された。

Studio Practiceでは米国に限らず、日本やインドネシアなど様々な国内外での実務プロジェクトの創案からデザインまでのプロセスを共有していただいた。実作のひとつであるエネルギーハウスは世界中の大学対抗で行われる米国エネルギー省 (DOE) 主催のSolar Decathlonに出展された作品で、世界標準のエネルギー効率、費用対効果、市場予測等の複合的な考え方を持った設計手法について学ぶことができた。

Design LABの章では、今後本学と大学間協力協定が結ばれる見込みであるUNCCのキャンパス事情やDesign LABの教育指針についての解説があった。Design LABの現在のスタジオ課題や研究内容の紹介では、視界に入らない空間を認識する空間構成などいくつかの意匠論研究の内容を詳細に解説いただき、研究を発展させたデザインプロジェクトも紹介していただいた。Chris氏の研究は常にデザインアウトプットが組み込まれており、仮説を超えた実現可能性に常に言及している点が印象に残った。

Studio Teachingの章では主にChris氏がDiploma Studioで取り組むEcocriticismについて1990年代から現在に至るまでの定義の変遷を紹介していただき、Inductiveなデザインの手法とdeductiveなデザインの手法を統合する弁証法的なデザインプロセスの探求がEcocriticism Methodologyとして紹介された。その方法論をベースにしたプロジェクトとして、トレーラーハウスやドローンテクノロジーなどを使用したICT技術と農業、建築を融合した複数のプロジェクトを見せていただいた。

Speculationを起点とした実践と学術研究の両方を交えた貴重なレクチャーは1時間を超えたが、最後には明治大学の学生や講師陣から講演者に対して多岐にわたる質問が交わされ、両校にとって有意義な意見交換の機会にもなった。



会場の様子 1



会場の様子2